
知識・技能部会 冬の学習会

札幌市立幌西小学校 鈴木 秀治

知識・技能の特性

〔知識及び技能〕

- (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項
- (2) 情報の扱い方に関する事項
- (3) 我が国の言語文化に関する事項



◎が付く学習は、主に、

- ①音読
- ②漢字の広場
- ③カンジー博士
- ④古典 など

これまで実践や、
研究会でもあまり
扱ってこなかった
教材が多い！

知識・技能を育成するために

1. 実態の把握を大切にする
2. 思判表と主体的との関連
3. ICTを活用して

この三点を意識していきましょう！

2年「にたいみのことば はんたいのいみのことば」

～知識技能の単元をどのように活用できるか～

単元目標

言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づくことができる。(知(1)才)

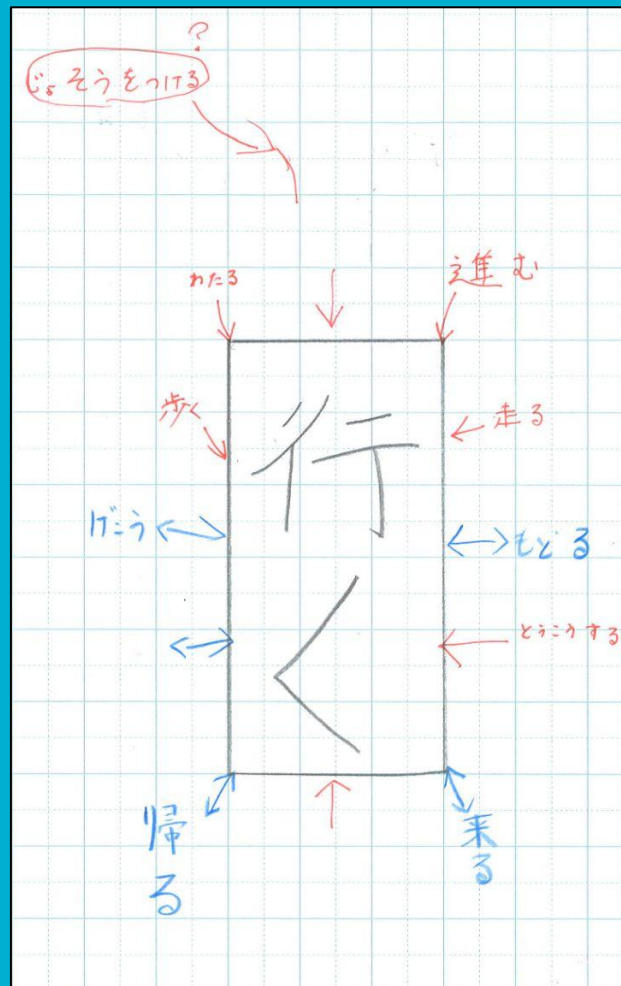
→ 身近な言葉を表す語句の量を増し、話や文章の中で使っているとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。

単元の流れ(2時間)

- ②一つの言葉から、似た意味の言葉や反対の意味の言葉を考えてノートに書き、言葉図鑑を作る。

◎共通のルール

- ・真ん中に言葉を一つ書く(自分で考えるのが苦手な児童には教科書巻末の「言葉のたからばこ」から一つ選んでもらう)
- ・赤→似た意味だと思ふ言葉
- ・青→反対の意味だと思ふ言葉



単元を通して子どもが学んだこと

- ・言葉には、似た意味の言葉が**いくつもある**。
- ・人によって、似ていると感じる言葉や仲間の分け方などに**違いがある**。
- ・似ているけど、**使う場面や文章**によって適している時と適さない時がある。

これまでの知識・技能部会の 授業実践交流から見えてきたこと

知識及び技能を主とした授業を意識的に行い、実践を**交流**してきました。

そこで、明らかになってきたことは、

**国語の知識・技能は、
子どもにとっても 教師にとっても
意識されにくい！**

ということです。

知識・技能を育成について考える

1.実態の把握を大切にする

2.思判表と主体的の関連

3.ICTや言葉の活用から

三点からアプローチしてみました！

子どもたちに知識・技能を意識させた授業の展開

→ <①指導事項の確認>

ぶれないように、指導のねらいを確認します。

→ <②子どもたちの実態>

ねらいとの距離を測ります。

→ <③実態をつかませる>

学び手が自分自身の力を知ることで、何をどうしたらよいのかを考えさせます。子どもたちの「できない。」や「うまくいかない。」が、ポイントになりそうです。

→ <④言語使用の意識を高める>

言葉を使って学んでいることを意識させます。

『カレーライス』

＜①指導事項の確認＞

(オ) 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げること、役に立つことに気付くこと。

自分の考えを広げる
→他の楽しみ方に気付く

重松 清さんの本

少年の心のつぶやきがよく聞こえる本

「カレーライス」 重松 清

皆さんは、親と喧嘩をしてしばらく口を聞かなかったことはありますか。高学年の心の変化を描いた共感できる物語です。

『カレーライス』

<②子どもたちの実態>

- ・そもそもあまり本を読む子は少ない。
- ・本の楽しみ方が分からない。

重松 清さんの本

私達が目線で書かれているお話！！

「カレーライス」 重松 清

皆さんは、おうちの人と喧嘩をした経験はありますか？このお話は、6年生のひろしがお父さんと喧嘩をしまいひろしもお父さんもお互いピリピリ.....。

ドキドキの4日間

ひろしとお父さんは仲直りできるのでしょうか！

『カレーライス』

＜③実態をつかませる＞

- ・短くまとめられない。
- ・大切な所が分からない。
- ・感想を言葉に表せない。

重松 清さんの本

自分のもやもやを解消してくれる本

重松清「カレーライス」 これは、謝りたくない男の子と、謝らせたいお父さんのお話です。謝るのか、謝らないのか。

『カレーライス』

＜④言語使用の意識を高める＞

- ・行動や言葉の変化を追う。
- ・自分と比べる。
- ・共感部分の理由を言語化する。

重松 清さんの本

色々共感できるところがある本

「カレーライス 重松 清」

絶対に謝らないと決めた小学6年生が出てくる物語です。謝る、謝らない、心のきが激しい、悔しさ、優しさたくさんの持ちが交わるお話しです。

自分自身の**知識・技能の** **向上**に気付く。

「できた」が見える

目で見えるように向上を意識させることで、学ぶ意欲も期待できます。